

西脇市における調査結果の概要

調査の目的 ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査対象 小学校6年生、中学校3年生

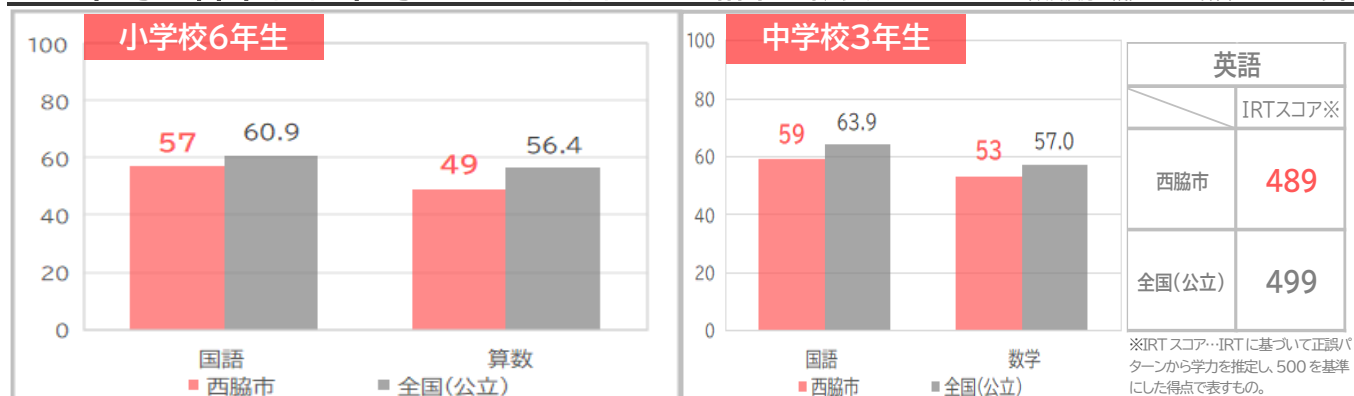
調査内容 ①教科に関する調査(国語、算数・数学、英語) ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

令和8年度全国学力・学習状況調査の西脇市における結果についてお知らせします。今回の調査結果を踏まえ、子どもたちの学力や学習状況の実態を把握・分析し、今後の教育施策や学校における取組に生かすことで、教育活動のさらなる充実に努めてまいります。なお、この調査結果は、子どもたちが身に付けるべき学力や学習状況の一側面を示すものであり、子どもたち一人一人の能力や可能性を総合的に評価するものではありません。この点について、ご理解いただきますようお願いいたします。

西脇市の子どもたちの学力と全国値

□ 平均正答率(%)・平均 IRT スコア(※)による結果の概要

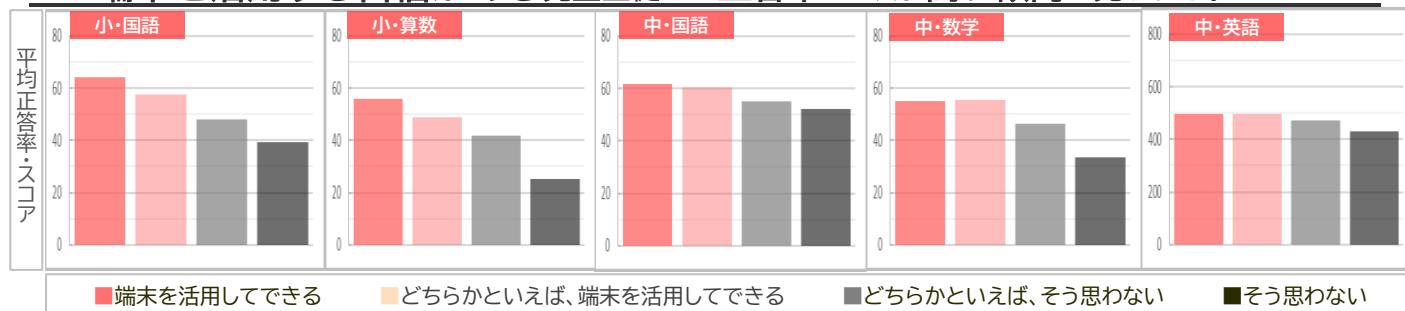
※中学校英語は CBT(コンピュータ試験)で実施し、IRT(項目反応理論)に基づき算出したスコアで表示



小学校6年生・中学校3年生ともに、全教科で全国平均を下回る結果となりました。3年ぶりに実施された英語では、日常的な話題に関する短い文章を読み、概要を捉える力に成果が見られた一方で、自分の考えを話したり書いたりする際に、その理由を適切に示すことに課題が見られました。また、授業で1人1台端末を「自分の考えをまとめたり、発表したりする活動」に積極的に活用するなど、端末を使った学習に自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率やスコアが高い傾向にあることも明らかになりました。

西脇市では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、1人1台端末の活用を推進しながら、『自ら学び、未来を織りなす』自律した学習者の育成を目指した研究に市を挙げて取り組んでいます。今後も、この研究を通して市教育委員会と学校が連携し、子どもたちが主体的に学ぶ力を身に付けられるよう、取組を進めてまいります。

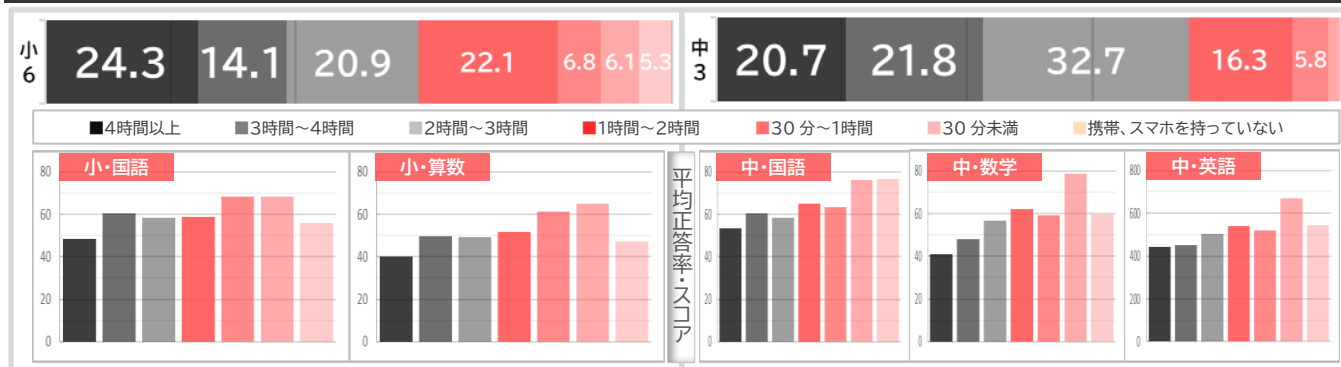
□ 端末を活用する自信がある児童生徒ほど正答率・スコアが高い傾向が見られる。



上記グラフは、「端末を使って情報を整理することができる」と回答した児童生徒の選択肢別平均正答率等を示したものです。分析の結果、すべての教科において、授業の中で端末を活用し、自分の考えを整理したり発表したりできると回答した児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向にあることが明らかになりました。また、質問調査からも、「端末を使って情報をうまく集めたり、整理したり、発表したりすることができる」と回答した児童生徒が約 8 割を占めており、多くの児童生徒が端末活用の効果を実感していることがうかがえます。端末活用を、児童生徒が自ら考えを構築し、他者と協働しながら新たな価値を創造するための「情報活用能力」を育む「文房具」として位置付け、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を力強く推進してまいります。

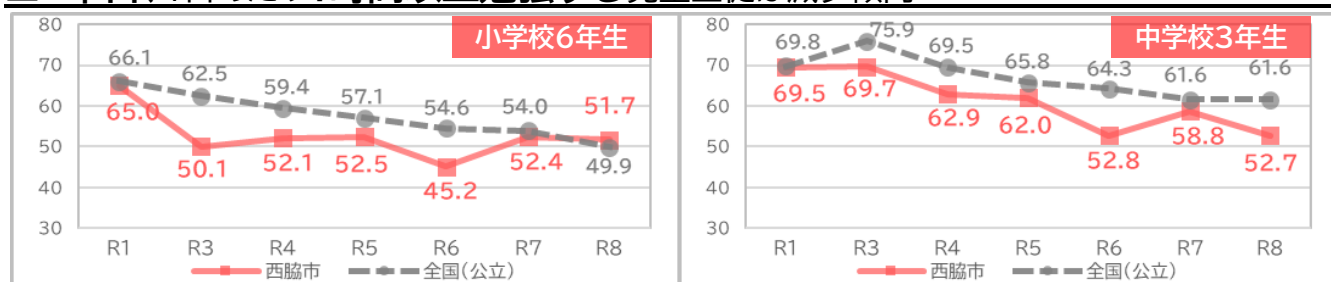
授業外(学校外)での学習や生活の状況

□ SNS・動画視聴の利用時間が長い児童生徒ほど、正答率・スコアが低い傾向が見られる。

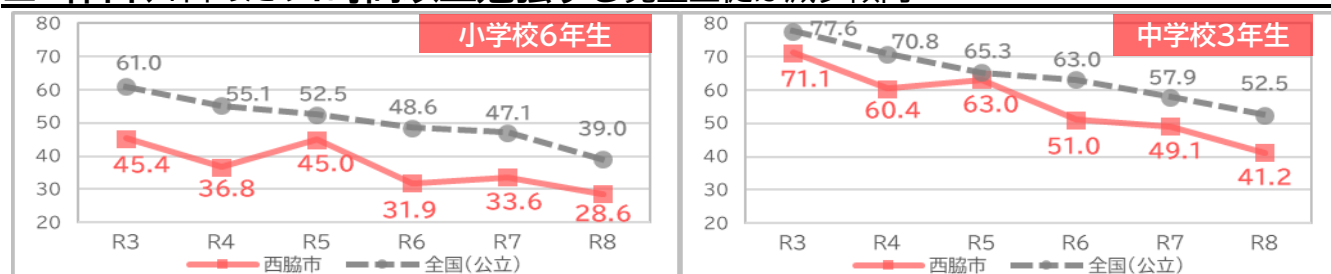


上記グラフは、「平日に SNS や動画視聴する時間」と、平均正答率等との関係を示したものです。1 日当たり「3 時間以上」と回答した割合は、小6で 38.4%(令和6年度比 14.3 ポイント増)、中3で 42.5%(同 7.5 ポイント増)となり、いずれも増加していました。また、SNS や動画視聴の利用時間が長いほど、正答率・スコアが低くなる傾向が、すべての教科において見られました。特に差が大きかったのは中3の数学です。1日4時間以上利用する層と 30 分未満の層とを比較すると、平均正答率に 37.8 ポイントの差が見られました。SNS や動画視聴の長時間利用は、学習時間や生活リズムに影響を及ぼし、学力との関連が見られることがうかがえます。

□ 平日、1日あたり1時間以上勉強する児童生徒は減少傾向



□ 休日、1日あたり1時間以上勉強する児童生徒は減少傾向



平日の 1 日当たりの勉強時間(1 時間以上)は、小6・中3ともに昨年度より減少しました。また、休日の勉強時間についても全国平均を下回っており、減少傾向が見られます。その背景の一因として、スマホや携帯等による SNS や動画視聴の時間が増加していることが考えられます。家庭においては、お子様と利用時間や利用方法について話し合い、学習時間や睡眠時間とのバランスを意識しながら、適切なメディア利用習慣の形成に向けた働きかけをお願いします。学校においても、情報モラル教育の充実を図りながら、児童生徒が ICT を適切に活用できる力を育み、望ましい ICT 活用の在り方を推進してまいります。

学校と家庭が連携し、子どもたちの望ましい生活習慣や学習習慣の定着に取り組んでいけるよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

保護者の皆様へのお願い

「兵庫が育む ころ豊かで自立する人づくり」リーフレットより

確かな学力を身につけるためには、授業の充実に加えて、家庭での学習習慣や基本的な生活習慣をしっかりと身につけることが大切です。お子さまが自立し、心豊かに成長できるよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

- ☑ **家庭学習** 子どもが落ち着いて家庭で学習できるように、励ましの声かけをして、がんばりを認めている。
- ☑ **ネット利用のルール作り** スマートフォンやパソコン等について、子どもと話し合ってルールを決めている。
- ☑ **家族とのふれあい** 食事を一緒にとったり就寝前の時間を利用したりして、学校での出来事や勉強等について話し合っている。
- ☑ **読書習慣** 絵本の読み聞かせや一緒に図書館へ行くなど、読書する習慣づくりをしている。